

## 認知症高齢者見守り 登録事業開始!

認知症などで行方不明になる可能性のある人の事前登録を始めます。登録申請をすると、その情報が市、警察、担当地域の地域包括支援センターで共有されます。これにより、行方不明となったときに早期発見・早期対応ができるようになります。また、登録した人にはQRコード付きの見守りシールを配布しますので、衣類、持ち物などにアイロンで貼る

付けてください(洗濯可)。

QRコードからアクセスする情報共有システム「どこシル伝言板」は、

24時間365日、行方不明者を発見した人と家族をつなぐ連絡手段となります。

見守りシールは、認知症高齢者を守りやすい環境づくりも目指しています。これまで、地域の皆さんから、声かけをして良いのかわからないという意見もありました。見守りシールの付いている人が困っている様子を見かけたときは、相手の正面にまわり、ゆつくりと「どうされましたか?お手伝いすることはありませんか?」などと声をおかけください。

対象 40歳以上で認知症などにより行方不明になる可能性のある在宅で生活する市民

申請者 本人、家族

費用 無料

配布物 QRコード付き見守りシール30枚セット

申請場所 地域包括支援室

申請時必要事項 申請者の身分証明書、携帯電話アドレスなどの連絡先、本人の写真(正面の顔、全身)、申請者の印鑑(シヤチハタ不可)



24時間365日  
素早く  
連絡できます!



## 私たちに ご相談ください



「認知症 かもしれないな と思います も相談でき なかった」 「どこの病 院に行けば よいかわか らない」 「認 知症とは思 わなかった」 など、まだまだ早期に 対応できていない状況です。

認知症初期集中支援チームは認知 症サポート医や医療・介護の専門職 など現在8人です。医療・介護の専 門職がご自宅に訪問し、6カ月を目 安に、サポートしています。

認知症でお困りのことがありまし たら、まずはお近くの地域包括支援 センターにご相談ください。

☎ 地域包括支援センター三島  
983・2689

☎ 北上地区地域包括支援センター  
989・6500

☎ 錦田地区地域包括支援センター  
975・2424

☎ 中郷地区地域包括支援センター  
984・3777

## 認知症サポーターに なりませんか

認知症について正しい知識を持ち、家族や地域の皆さん、職場などで小さなサポートをする認知症サポーターになりませんか。

市民や、市内の企業などで希望する団体向けに養成講座を開催いたします。お気軽にご連絡ください。

平成28年度は36回開催し、927人がサポーターに加わりました。



▲サポーター養成講座の様子▶

## 中学生に実施したサポーター 養成講座の感想（抜粋・要約）

▼講座を受ける前は「認知症か：身近なことじゃないな」という気持ちでした。実際、認知症について考えたこともありませんでしたが、講座を聞いて考えが一変しました。「認知症は誰もがなる可能性があります」と言われ、とても驚きました。心の状態や環境が症状に影響することや、介護する人の接し方によって症状の進行が変わるということも知ることができました。（3年生・男性）

▼母の職場には何度も同じ商品を買ってくる人がおり、その人には優しく声をかけてあげるそうです。このように地域全体で認知症について深く学び、これからの社会がよりよくなるように尽くしたいと思います。（3年生・女性）



▲5月8日中郷西中学校での様子

## 認知症の家族がいる 皆さんへ

平成29年度に三島市オレンジリングの会（認知症家族の会）が発足しました。認知症の家族を介護している人・していた人が集まり、座談会や情報交換を行っています。一人で抱え込まず、話してみませんか。

### 今年度の家族会予定

▼11月8日(水)

「アロマでリラクゼーション」

▼平成30年1月17日(水)

「エンディングノート」

※参加を希望する場合は地域包括支援室へお問い合わせください。

### 参加者のコメント

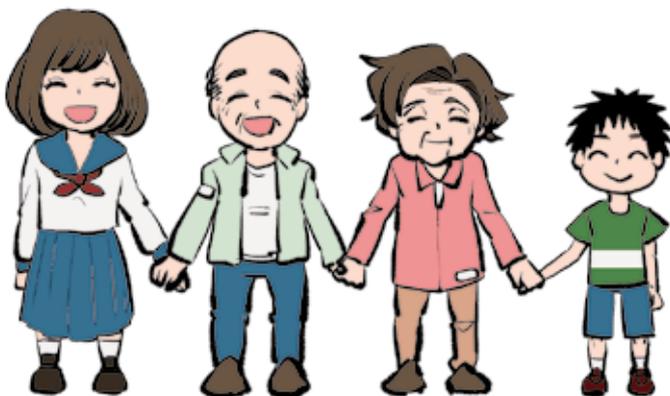
▼会員の悩みや辛いことの中にも知恵や工夫を聞くことができます。仲間と共有するとストレス解消になり、帰り道は心が少し軽くなります。（70歳代・女性）

▼私の母が壊れました。どんなに壊れても母なので、家族会の人の協力を得ながらそばにいます。（50歳代・男性）

## 最後に

認知症になる可能性は誰にでもあります。しかし、何もできなくなるわけではありません。

関わる人が認知症についてあまり知らないために、本人やご家族が悲しい思いをすることもあります。その反面、地域の皆さんの見守りや声かけが認知症の人を癒すこともできます。住み慣れた地域でその人らしく生活していくため、認知症を身近なものとして考えていきましょう。



問 地域包括支援室 ☎ 9833・2689